



大学史資料室 特別展示

核時代を生きた科学者

西脇安

本展示は、東京工業大学博物館、同原子炉工学研究所、同大学院社会理工学研究科共催で、2014年10月11日から10月31日まで、東京工業大学博物館において行われた。

東京工業大学博物館のホームページに、関連の情報が掲載されている。日本語版、英語版のパンフレットもダウンロードできる。

(＜東京工業大学博物館＞→＜過去の展示・イベント＞で検索可)

日本の放射線生物物理学の草分けの一人である西脇安(にしわき・やすし 1917年～2011年)。その生涯を通じて彼は、放射性被ばくと原子力の問題に向き合ってきました。核時代の黎明期に日本陸軍の原爆開発に参加し、ビキニ核実験時は「汚い水爆」の解明につながった「死の灰」の調査とその海外への発信、さらに国内外の原子力政策に関与し、福島原発事故の報道の中で他界しました。

本企画展では西脇の足跡を辿り、核時代を生きた一科学者が、どのように信念を貫き、社会と関わったかを考えています。